

平成 26 年 5 月 12 日

松阪市議会
議長 中島清晴 様

報告者：深田 龍

視察報告書

この度、下記の通り行政視察及び研修を実施致しましたので、その内容等についてご報告致します。

日程：	平成 26 年 4 月 30 日(水)～5 月 2 日(金)の 3 日間
視察先：	①1 日目：大野城市役所 〒816-8510 福岡県大野城市曙町 2-2-1 ②2 日目：南九州市役所 〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡 17880 (3 日目は移動のみ)
視察研修の テーマ：	①古代山城サミット事業について 14 時 00 分～15 時 30 分 ②町なみ保存と平和教育について 13 時 30 分～17 時 00 分
ご説明者と 面会者：	① 教育委員会文化学習課 文化・学習担当 係長/山本耕督様 主事/田中律子様 議会事務局 事務局長/白石順三様 主事/富吉俊介様 ② 教育部文化財課 文化財係長/東垂水忠二様 主査/坂元恒太様 知覧特攻平和館 館長/菊永克幸様 語り部/峯苦眞雄様 議会事務局 係長/菊永隆信様
参加者：	【青凜会】野口正、濱口高志、沖和哉、【無会派】深田龍 計 4 名

① - 1. 大野城市の概要

面積：26.88 km²、人口：98,362 人（平成 26 年 3 月末時点）

昭和 47 年に大野町から大野城市に。名前は公募で決定。

福岡市の南に隣接し、古くから博多と大宰府を結ぶ交通の要所として繁栄した。国道 3 号線や九州自動車道、福岡都市高速道路、JR と西鉄が走り、福岡空港も近いことから交通の便に恵まれた地域である。また中心部には四王寺山等、緑も残っているため住みやすい町として人口増加が続いている。



2. 目的

平成 22 年から九州・四国・中国・関西地方の 31 自治体と協力し、城跡を生かした事業の一環として「古代山城サミット」を開催している。その内容と効果について話をお聞きするため伺った。

3. 古代山城サミットの趣旨・目的について

- 「神籠石系山城」と「朝鮮式山城」をテーマとし、広く文化財保護意識の高揚・普及・啓発を推進する。
- 「古代山城」が所在する自治体同士の連携と交流を図り、古代山城のネットワークの構築を推進する。
- 貴重な文化遺産・歴史資源である「古代山城」を地域の再生・活性化や地域おこし・まちづくりに活用するため、意見交換や情報交換を行う。
- 古代山城のネットワークを活用し、自治体や市民の交流を図ることで、地域の文化の振興を図る。

4. 古代山城サミットが開催されるまでの経緯

平成 18 年 3 月に市民で組織された「まちづくり懇談会」から提言を受け、平成 19 年度に「山城サミット準備委員会」を設置。

一方で平成 18 年に山口県光市で、「第一回神籠石サミット」（神籠石系山城が所在する自治体に参加）が開催された。その後、毎年開催都市を変え平成 21 年まで同サミットは開催され、平成 22 年からはこの流れを受け継いで朝鮮式山城が所在する自治体も加わり「古代山城サミット」が開催された。その第一回目が大野城市で開かれた。



↑約半年前には古代山城プレサミットが開催された

5. 古代山城サミットの内容

平成 22 年 9 月 24・25 日の 2 日間

一日目	二日目
<ul style="list-style-type: none"> ・「大野城跡」「水城跡」の見学 ・自治体首長会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代山城サミット宣言の採択 ・シンポジウム ・小、中学校による学習発表 ・伝統文化の披露 ・古代食試食会 ・パフォーマンスコンテスト ・古代衣装の披露 ・こども文化フェスティバル等



←自治体首長会議の様子



←シンポジウムの様子



←伝統文化披露の様子

6. 所感

過去から慣習的に行われているお祭りや行事を継承しながら更に磨きをかけ、「古代山城サミット」は盛大に開催され、第一回・二日目のお祭りに約5万人の参加者があった。

今回訪れた大野城市だけでなく、共通点のある他市との友好的な関係性の中で、広い地域で取り組むイベントという視点は今回学んでおきたい点である。

経済効果や2日間トータルでの参加者数は不明というお話だったが、毎回開催場所が変更される「古代山城サミット」が再び大野城市で開かれる時が来た時のためにも、またサミットと関係なく日頃から山城を訪れてもらうためにも今後は登山道の整備や観光協会の立ち上げる予定ということで大野城市の観光はこれから益々成長していく、そのきっかけとして古代山城サミットが開催されたと感じる。

－ 1. 南九州市の概要

面積：357.85 km²、人口：38,676 人

南九州市にある知覧町は、薩摩藩の 113 外城の一つで、知覧島津氏の私領地であった。今から 250 年程前に整備されたと伝えられる町並みは、伝統的建造物群及び地割りがよく旧態を保持している地区として重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

2. 目的

南九州市の知覧町における武家屋敷並びに庭園の「まちなみ保存」と、平和祈念館を中心とした平和教育について学ぶため訪問した。

3. -I まちなみ保存の概要について

南九州市が都市計画に定める伝統的建造物群保存地区に関し、現状変更の規則・その他保存のため必要な措置について保存条例及び保存計画を定め、地区の歴史的環境の保全を図ることを目的とし、修理事業・修景事業・復旧事業・管理事業を実施している。

- 修理事業：伝統的建造物の外観に限られる（特別な場合は除く）
- 修景事業：伝統的建造物以外の外観で、その地区にふさわしい形態に修景整備する
- 復旧事業：生垣捕植等の土地の自然物などで環境物件に関する事業
- 管理事業：保存地区において建造物の管理等に必要となる防災施設、標識、説明板、案内板等の設置

事業経費について

- 南九州市が直接おこなう事業：国 65% 県 5.25% 市 29.75%
- 地区内の所有者または住民が行う事業：所有者負担 20.30% 補助金 80.70%

平成 15 年度からで 31 件の申請があった。



← 事業後の家屋

3. -II 平和祈念館から発信する平和教育について

大東亜戦争末期に特攻作戦という他に類をみない体験を根底に、平和思想の普及を図ると共に、1036名の遺品や関係資料等を収集保存し、その記録を後世に残し、恒久の世界平和に寄与することを目的としている。戦争を知らない世代への平和を考える学習として、修学旅行・教育旅行等の誘致を図り、健全で正しい平和学習の推進を図る。

●平成24年度実績

小学校	264校	13,049人
中学校	192校	21,919人
高等学校	171校	22,029人
その他	48校	3,331人
合計	675校	60,328人

●年度別来館者数の推移

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
626,814	681,391	677,617	563,657	424,990	569,021	536,253	約570,000



←【^{せんたいごう}掩体壕】敵の爆撃から飛行機を守るシェルター
知覧飛行場跡付近で発見され、復元改修された。

所感：

平和祈念館に入って少し奥へ進むと、語り部を中心に人の輪が出来ているのを目にした。語り部の話を聴くことは戦争の悲惨さや命の尊さ等を直に肌で感じられるまたとない機会であった。何より凄いと感じたことは、戦死された方々の遺書を全て頭に入れられていた事も凄かったが、何よりそれらを伝えることの一生懸命さであった。約10人ほどであったか、特攻で亡くなられた方一人ひとりのエピソードを事細かに話し、つい最近のことであったかのように表現されるリアルさが印象的であった。平和祈念館が在る本来の目的の通り、戦争の酷さや未来に対する希望を更に伝え続けていくためにも、物だけでなく人が伝える生暖かい力を伝承していく事も重要だと感じた。私がお聴きした語り部は86歳、未来の子供たちの教育に熱心な話も垣間見えた。